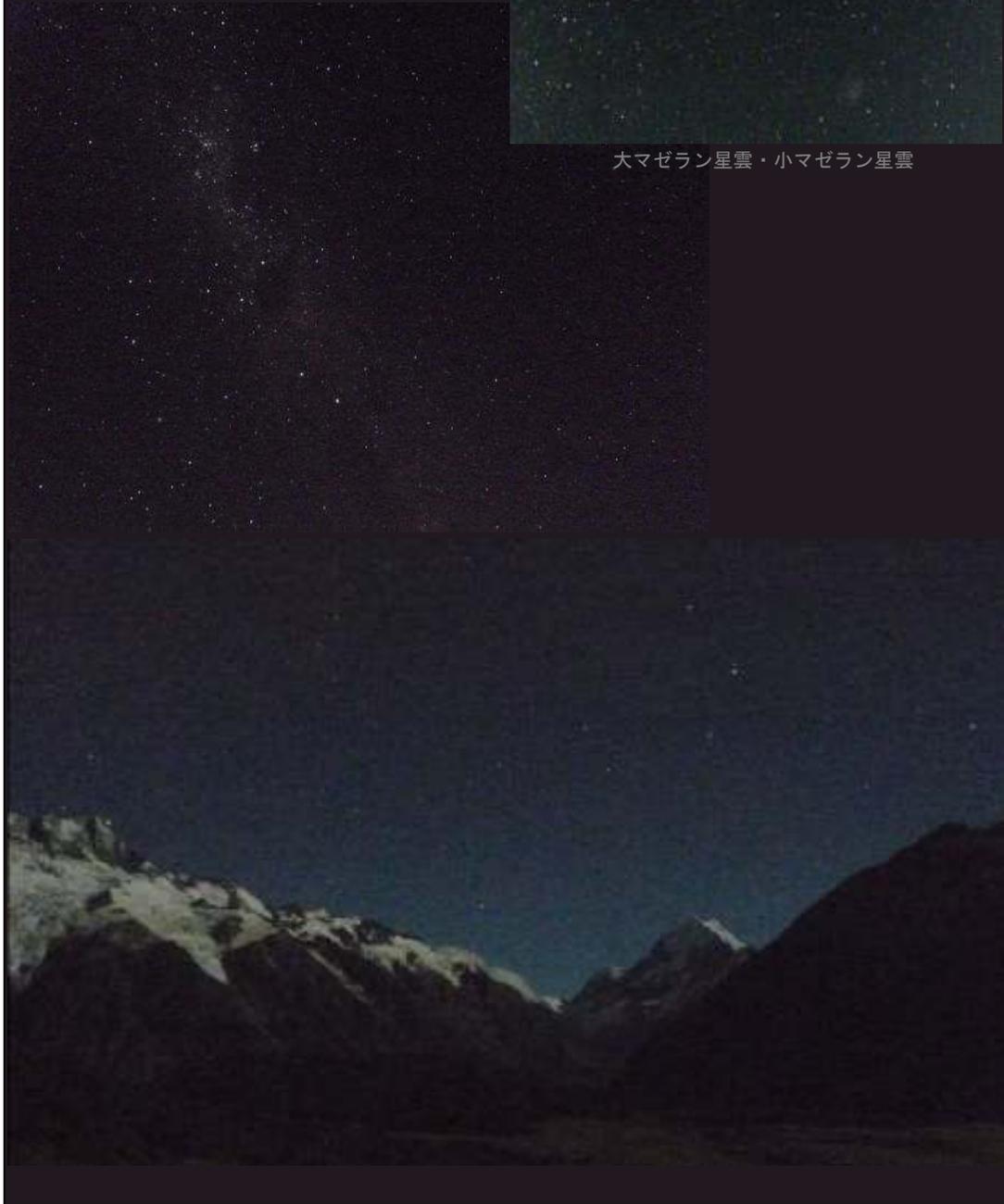


南十字星と銀河



大マゼラン星雲・小マゼラン星雲



マウントクックとフッカー氷河・氷河湖



ニュージーランドの旅



Large mountain daisy South Island edelweiss Benmore gentian Daisy Rimu-roa Woolly head



マウントクック ローピーク



フッカー氷河の先端

2009年2月11日～18日 内山

ニュージーランドの旅

気が付いたら

会社勤めも一応節目を迎えるにあたり、ご褒美と思い海外旅行を計画した。前回12年夫婦初めての海外旅行でニュージーランドに行った時、マウントクックの写真が自宅のパソコンの壁紙にしてある。

そのツアーで半日のフッカー谷ハイキングがあったが、時間の都合であまり奥まで進めずに折り返している。いつも妻と「フッカー谷の氷河湖を見てみたかった。」と話していたので、ニュージーランド行きを決めた。

あちこちの旅行会社のパンフレットを集めて見比べたが、マウントクックでたっぷり時間が取れるプランはほとんどない。そこでインターネットでニュージーランド旅行を検索して、グローバルネットのHPを見た。クライストチャーチで日本人がやっている旅行社。問い合わせは勿論日本語でOK、現地の情報もバッチリであろうとHPから問い合わせをしたのが最初である。

なにしろ英語が苦手で、しかも個人旅行となると何かあったときに困る。提案していただいた、要所に日本語ガイドは大変心強い。

いよいよ出発直前グローバルネットからのメールでは昨日今日のお天気などもお知らせいただき、インターネットで天気予報を見ると、到着日は雨らしい。天気予報がはずれる事を期待しつつ出発。

オークランドは天気予報通り小雨。国内線への乗り継ぎ時間が短いので妻をせかして急いで入国審査と通関へ、通関でハイキングシューズは

” Good Perfect ! ” そりゃそのはず、グローバルネットのメールで注意事項をお知らせいただいていたので、出発前に靴の裏をゴシゴシ洗っていたのだから。

ゲートを出たところで日本語ガイドさんと合流、これで一安心。やはりこちらは夏だ、長袖では暑くなってきた。結構湿度も高い様だ。

無事国内線に乗り継ぎ、いよいよクライストチャーチへ。

ガーデンツアーとホテルへ送ってくれるガイドさんと合流。

もう一組の御夫婦と同行する事になる。

ハグレー公園のバラ園へ、今回はこの公園を歩いた事を思い出しながらきれいなバラを鑑賞。



ハグレー公園のバラ園

遅めの昼食は軽くと言うことでショッピングモールへ。車を降りてから現地のお金が無い事に気が付いた。グローバルネットのメールで両替率のよい免税店に案内すると書いてあったので、それを当てにして空港で両替に気が付かなかった。

昼食も食べられない！ ガイドさんに言

うと、「カードが使えると思うが、必要なら貸します。」との事。

カードならあるので買う前にカード払いできるか聞いてみることにして現金なしで分かれた。

昼食後、個人宅のお庭拝見のため住宅街へ。今日訪問するお宅は、クライストチャーチのガーデニングコンテストで優勝した事のあるデニーさんのお宅だそうである。郊外の住宅地は歩道の芝生も大変きれい。

各家の前の歩道の芝生はその家が担当して手入れをしているとのこと。

横の門からデニーさんがお出迎え。アプローチから緑のきれいな芝生で両側に小さな花と紫陽花が咲き乱れ、すごくきれい。公園の入り口の様で奥行きがあり、花の色のバランスや配置など「すごい」と言うほか無い。



デニーさんのお庭入り口

デニーさんのお庭

手作りのクッキーとお茶を戴きながら、話を聞くと1日4時間程度の手間をかけている様だ。

2軒目はハンギングで同じ品種の花だが、色大きさ、形がさまざままで品種改良しながら作っている。



ダリアも大変きれいに作っており、芝生もふかふか。

気持ちいい！！

クライストチャーチといえば、大聖堂が中心。

雨は上がったが雲はまだ厚い。気温も上がらず、これでも夏??



クライストチャーチの大聖堂

気が付くともうすぐ5時、結構明るい。大聖堂の中はこんな感じでステンドグラスもきれい。



大聖堂の中から

ホテルでバウチャーなどこの後必要な書類の説明を受けたが、帰りの国内便の航空チケットが無い。ガイドさんがグローバルネットに取りに行ってくると言うので、同行させてもらい田代様、吉川様にご挨拶とお礼。

ニュージーランド最初の夜が明け いよいよマウントクックへ。

今回の GREAT SIGHTS のバスは、途中日本語で説明してくれるので、小さな町や牧草地の状況、長い橋など良く解り、長いバス移動も楽しめた。

曇り空の時しかみられない光景で、雲が湖の水の色を映して湖の上の雲だけ青く見える事を教えて

もらった。これも貴重な現象で言われて見ると確かに湖の上の雲の色が違う。天気は晴れるのが一番ありがたいが、曇っている時だけ見せる自然の



素晴らしいさもまた楽しませてもらえる。

途中、前回時間が無くバスの車窓から眺めたテカポ湖畔にたつ善き羊飼

いの教会に寄って、一路マウントクックへ。今日通過していく方々には気の毒だが、マウントクックは雲に隠れたままだ。

2時過ぎチェックイン。部屋番号 711。キーと日本語の周辺案内図をもらって部屋に。ウェークフィールドで予約したはずなのにキーはアオラキウィング。部屋に入ってビックリ。大きな窓からマウントクックが正面に見える。一番端なので側面にも小窓があり素晴らしい部屋だ。(この部屋で良いのかなー、違いましたと部屋を移動しなくてはならなくなるのを避けて、黙っておこう) それにしてもラッキー。



テカポ湖畔の善き羊飼いの教会

部屋からの眺めはまた後でお見せする。

3時過ぎ、だいぶ雲も上がりマウントクックも頂きが見え始めてきた。周辺を散歩するため部屋を出る。散歩道も整備され、以前小鳥と出会ったベンチを探し、だいぶ楽しんだが、まだ明るい。

あちこちに咲く花が、心を和ませる。



夕食はまだ

明るいうちから始まるが、レストランの全面の窓からマウントクックがきれいに見えている。あしたは期待できそう。夕食もバイキング形式で、かなりの品数があり、日本食まであるのにはちょっと驚き。ローストビーフやローストラムを美味しく頂く。チーズの種類も豊富で、生野菜も味が濃い感じがする。ここでも食事に2時間。やっと外が暗くなった。

今夜はもう一つ、スターウォッチングツアーがある。ちょっと雲が多く、残念ながら本日は中止。明日に期待しよう。

寝る前にカーテンの隙間から外を見ると、月が出ている。なんと山が月明かりでくっきり。星も輝いているではないか。



部屋の電 手造りの簡易赤道儀

気を消して、カーテンを開け月明かりの山と星を堪能。早速、星の写真を撮ろうと作ってきた簡易赤道儀を組み立て、山と星の撮影開始。エーと、どっちが南だ??



月明かりに浮かぶ フットスタール、ガドガン・ピークほか、部屋の窓から



いよいよハイキングの日、

目が覚めて最初に外を見る。ウーン朝雲か山の中腹に少し雲がかっているが、山頂は見えているからこの雲も上がるだろう。

昼食用のサンドイッチを購入し、日焼け止めを塗っていよいよ出発。キャンプ場への道を進む。



朝雲がたなびくフッカー谷

雲も次第に薄くなり、足取りも軽く進む。少し先はかなり年輩の男性が、半ズボンで、歩いている。あの年齢の方が歩けるのなら、と思うがその年輩の方になかなか追いつけない。

キャンプ場への分岐点を探しながら進む。

そう思っているうちに、分岐点が出てきた。道標を見ると、フッカー谷の文字はなく、セアリターンとケアポイントの文字。あれー、キャンプ場への分岐点はずっと手前のはずだ。行き過ぎてしまったらしいが、ケアポイントまで15分と書いてあるので、そのまま行ってみることにする。

あっけないほどすぐにケアポイントに到着。氷河で削られた谷に雪解け水が溜まっており、山肌の上の方に氷河が残っている。

以前はもっと氷河が迫っていたのだろう。



セアリターン、ケアポイント分岐点



ケアポイントから見るマウントクック 手前の崖は側堆石

ここからは初めてみる景色になる。

さすが世界遺産に登録されている場所である、いろいろな国の人々が通っている。なかなかぎやかで、歩き方もいろいろ。我々も足が短いので、

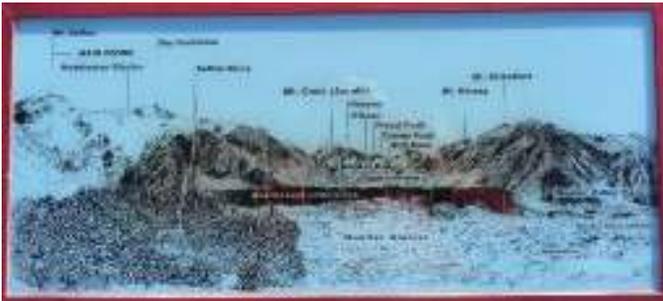


Large mountain daisy

後ろからくる足の長い人に先を譲りながら、前から来る人たちに Hello、Hi、こんにちはわ、と声をかけながらマイペースで進む。氷河湖から流れ出すフッカー川の音を聞きながら咲き残っているデージーの写真を撮り、氷河湖へ。途中で、2人で撮ってあげると声をかけられて、願います。(勿論英語だったが、何とか対応できた)

いよいよ氷河湖が見えてきた！

もう少しだ。



むこうの崖はミューラー側堆石、氷河の運んだ山の削りくず。

フッカー谷の氷河湖めざして方向転換。



さーいよいよ氷河湖へ。途中の高山植物を見たり、吊り橋を渡ったりしながら、前回の到達点にたどり着いた。



ベストポジションの記念撮影 ハイカーが撮ってくれた

着いた。湖の向こう端に見える白と黒の横縞の崖が、フッカー氷河だ！！ランチが美味しい。

あのフッカー氷河が何百年の時を越えて、ここにその素顔を現し、崩れて氷河湖に浮かび、フッカー川として流れを下りプカキ湖へ・・・



フッカー谷 第1の吊り橋



第2の吊り橋



South Island edelweiss



ここに来たかった。 今回の旅の目的地。



フッカー氷河の先端



氷河湖にうかぶ氷河のかけら



フッカー氷河湖のほとりでランチ



マウントクック ローピーク

満足感に浸りながら、

何時までも眺めていたい思いを残し、

あの山の氷河は、何時ここにたどり着くのだろう、

.....

ぼんやり考えながら、やむなく帰路につく。



第2の吊り橋からハーミテージが見える（中央右寄りの黒い部分の左端）

谷にははるかプカキ湖が見える

フッカー谷の山の間には、はるかプカキ湖がある独特の色を見せている。帰り道でも、新しい発見。この時期なら、さしずめリンドウの仲間か、真っ白な花が咲いていた



Benmore gentian

程良い疲労感を覚えながら、ホテルの部屋から、向こうに第二の吊り橋の辺りが見えるはず、とシャッターを切る。

そして次のイベントへ。昨夜のスターウォッチングツアーのガイドさんから、寒いので着られる物全部着てきてくださいと連絡が入る。

もともと雨でもハイキングできる様にと過剰なぐらいの準備をしてきてい



ハーミテージ 711号室の窓からの眺め

るので、着る物や防寒には不自由しない。ロビーでツアーの皆さんと合流しバスに乗るため外に出ると、歓声上がる、空一面に星が見える。早速バスに乗り込み、マウントクック飛行場の方に寄った牧場の中に移動する。道路から外れ、牧場のゲートを開けて入りさらに少し進んだ所が観測地点。牧場に入るとすぐ、野生の兎がヘッドライトで驚いて走り去る。バスを下りて明かりを消すと、久しぶりに天の川と対面。

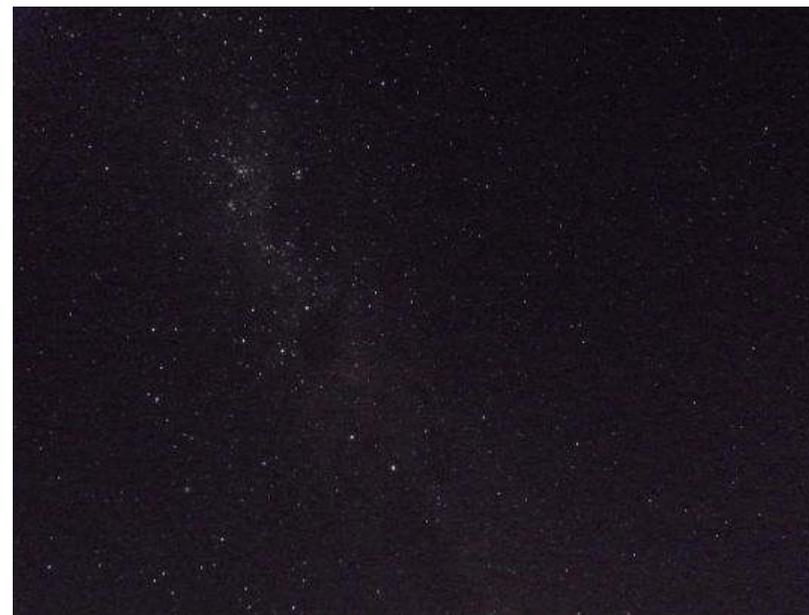
念願の南十字星はすぐにわかった。まさに満天の星である。ガイドさんが望遠鏡を準備している間に、私も写真撮影用の手製の赤道儀を準備する。まずは見ていただきたい、すぐ南十字星はわかるはずである。

ガイドさんの説明を聞きながら、手製の赤道儀を手動で動かし星の写真を撮影。用意してくれた望遠鏡で二重星や星団を観測。

途中、運良く国際宇宙ステーションも通りかかり、これもまた絶好のチャンスと、撮影した。



東南方向 宇宙ステーション 20秒露出



南十字星と天の川 (2009.2.14 22:30頃 20秒露出)



天頂方向 大マゼラン星雲、
小マゼラン星雲 60秒露出

日本では見られない大マゼラン星雲、小マゼラン星雲も、肉眼でもよく見える。日本でなじみのオリオン星は、上下が逆さまで、三つ星の下に見える星雲が、ここでは三つ星の上にある。そして土星が昇り、望遠鏡で観測しているうちに、月が昇り本日のツアー終了となる。

ホテルに帰ってから、もう一度マウントクックと星空を部屋の中から撮影。

今日は最高の日だ。快晴のマウントクックでフッカー氷河の氷河湖を見ることができ、南十字星の写真を撮ることができた。

マウントクックを後に

出発は午後2時過ぎなので、ガイドブックに載っていたレッド・ターンズ・トラックに行ってみる。村の南側の丘を登ると書いてある。丘を登



部屋の窓から、月明かりに浮かぶマウントクックと星空 露出 20 秒

ると書いてあったが、結構きつい昇りで、ほとんど階段が続き、平地や坂道がない。昨日もかかなかった汗をここでかいた。

マウントクック・ビレッジが箱庭の様に一望でき、周りを囲む山からかつてここも氷河が存在したことをうかがわせる。マウントクックも雲がかかり初め見え隠れしている。ハー



ビレッジの全容 レッド・ターンズより

左端がハーミテージ



レッド・ターンズよりセアリー山脈



? Dainty daisy



Rim-roa

ミテージもよく見えるのどかな景色だ。階段ばかりで帰りも大変だったが、やはり高山植物も咲いており、デージーの株もあちこちにある。時期がよけ

ればきっときれいなのだろう。いよいよマウントクックを離れる。一路クイーンズタウンへ。途中日本語ガイドで6年間毛刈りを逃げ回っていた羊の話や、ゴールドラッシュの時代、採掘作業をしていたのは勤勉な中国人が多かった事。ローリング・メグス、ジェントル・アーニーさんの話など紹介してくれた。ちなみに今夜のレストランはローリング・メグスである。

途中のクロムウェルで小休止、ここはストーンフルーツと言って、杏やすももなど真ん中に一つ種のあるフルーツの取れるところ。



Jones's Fruit Stall Cromwell でフル

ーツの試食ができ、生はもちろんドライフルーツも販売していた。明日のハイキングに備え、すもも4個と杏5個を購入、なんと \$ 2.5 = 125 円 すごく安い、試食で杏2個分食べてしまった。甘い。

12年前に泊まったのと同じホテル（ホテル名は変わっている）で昔のままである。夜窓から南十字星がよく見えた。

ルートバーンへ



ワカプティ湖の北側

空を見ると曇り。でも今日行くルートバーンの方向（北側）の雲が切れ始めている。晴れることを期待し、準備をしてロビーへ。本日のツアーガイド（探検ツアーズ）と合流。もう一組と別のホテルで合流し、ワカティプ湖沿いに北上。途中

雨がフロントガラスに当たったが、しばらく進むと雲が切れ虹が見えてきた。車は時速 100km 程度で走行。高速道路ではない一般道路である。

ハイキング出発点のルートバーン・シェルターに到着。雲はだいぶ消えて良いハイキング日和になりそう。いざ出発。



歩き始めるといきなり吊り橋。その後は、ブナ林を進む。ガイドさんから、銀ブナ、赤ブナ、山ブナの葉っぱによる見分け方を教わる。



ブナ林の中を進む

ブナの林を歩いていると、小鳥が見える。ふと気がつくとなんと小鳥が寄ってくる。私も乗鞍高原で、小鳥が寄ってくる場所で遊ぶ事はあるが、これほど近くに寄ってくるのはなかなか見られない。ニュージーランド・ロビンは人が歩くと落ち葉がかき回され、その中にいた虫が動き出すので、それをねらって来るとも言われているらしいが、とにかく好奇心旺盛で可愛らしい。5羽から6羽が我々の周りに近付いて来ている。ガイドさんも、こんなに多くのロビンを一度に見るのは初めてとの事で、10分以上ロビンに遊んでもらった。



ブナ林の中で出会った ロビン達



途中、世界最小のシダ（手が透けて見えるほど薄い）や胞子を付けたシダ、スギゴケの1種、地衣類など、珍しい植物の説明を聞きながら少し登りまた平らな道をのんびりと歩く。変わった木を教えてもらった。ランスウッドと言ひ、若木をモアに食べられるのを自衛するため、葉の廻りに棘を付け幹を覆う様に垂れ下がり身を守っているが、成長しモアの身長より大きくなると自衛する必要が無く



幼木 ランスウッド 成木

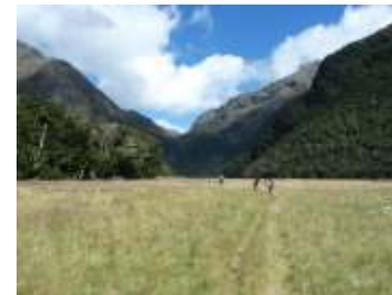
なるので、光合成に適した幅の広い葉になり横に広がって葉を付けている。植物には脳があるわけでもないのに、なぜこのような変体をするようになったのか、実に不思議である。

途中で、環境庁のレンジャーをしていると言う中年

の女性に会った。ルートバーン・トラックをほぼ毎日巡回し、整備保守してくれているそうだ。



Woolly head



ルートバーン川の河原

ルートバーン川にそって徐々に登っていき、広い河原を歩いたりしながら、折り返し地点のルートバーンフラットに到着。

パラダイスダックがお出迎え。広い河原で、ガイドさんが入れてくれた暖かい紅茶をのみながら、のんびりとサンドイッチのランチ、マウントクック

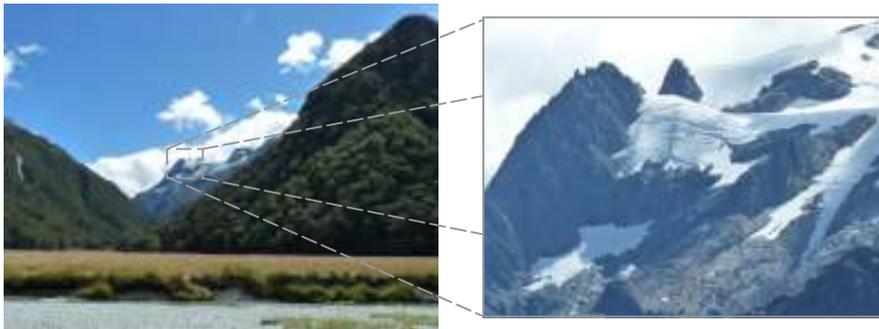


パラダイスダック



Downy daisy

クからの移動の途中で買った、すももと杏を食べてのどを潤す。朝の曇り空からは想像できない程の強い日差し。また日に焼けそうだ。



ルートバーン・フラットから望むピークにも万年雪が見える

来た道に戻るのだが所々コースを変えて、シダの中を歩いたりして変化を楽しんだ。途中、ルートバーン川の河原に降りて、きれいな水でのどを潤

し、魚影を探したりしながら戻る。



ブナ林の中のシダ



ついに出発点に到着。

昨日のレッドターン・トラック ルートバーン川の水はきれいに澄んでいるに比べると、穏やかなハイキング。いよいよ今回の旅のハイキングイベントはこれで終了。晴天に恵まれ用意したカッパも使わずに済んだ。

クイーンズタウンまでの帰りの車中から、映画「ロード・オブ・ザ・リング」のロケ地グレーノーキを通りその山並みをかいま見る事もできた。

夕食前に少しクイーンズタウンの町を散歩するためホテルを出てぶらぶらと。前回訪れた店を探してみたが、全くわからない。

初めてのプライベートの海外旅行で、二度訪れるとは思わず良く覚えていないのだ。



グレーノーキの山並み

絵葉書のような栈橋を見ながら12年前に思いを馳せ、ここに再び立つ今をかみしめ、そしてこれからの未来を思っている。



なんて、柄にもない事を！
そろそろ、レストランの予約の時間だ。今夜は、ブリタニアだ。
ここも日本語で迎えられ、無事テーブルに。シーフードチャウダーが美味しく、サーモンステーキも美味しい。

最後の訪問地オークランドへ

少しゆっくり起きて、チェックアウト。

なんとかフロントで荷物を預かってもらい、少し英会話して町に行く。病院や学校、消防署などぶらぶらと見ながら歩き、ホテルに戻り荷物を受け取ってタクシーを呼んでもらう。

南島を後にしていよいよオークランドへ。

途中飛行機の窓から雪をかぶった山が見えた。もしかしたらマウントクックかな？



オークランド到着。日本語ガイドに合流、まずはオークランド市内を一望できる一番高い山マウントイーデンに案内してもらおう。この辺は火山の名残で、マウントイーデンの頂上横には旧噴火口跡が窪地となって残っている。オークランドはこの様な山（丘）が平野にポコポコと点在しているため、坂が多いそうである。



マウントイーデンの噴火口跡



マウントイーデンからオークランド市内を見渡すとポコポコと丘が見える



ヨットハーバー

ヨットの町と呼ばれる様にヨットハーバーが見通せ、沢山のヨットが係留されて



オークランド博物館

いる。オークランド1の広大な公園を通り、博物館を横目で見ながら、パーネル通りで車を降り、しばし町並みを鑑賞しながらチョコレートブティックで買物。やはり夏だ、オープンカフェもあるが、窓を全開にしてオープンカフェと変わらない感じの店が多い。横道の路地にもかわいい店がある。



パーネル通りの横丁

再び車で、港へオークランドは島も多くフェリーが頻繁に行き交っている。左手にはハーバーブリッジが見える。

最近では朝夕の渋滞がひどくなってきているらしい。ここは都会だ。

4時を回っているが日はまだ高い。港ではヨットがゆっくりとセーリングしている。のんびりした感じ。以前はなかったスカイタワーを横目に、クイーン通りを抜けて最終日のホテルへ到着。



食事のあとでガイドさんに教わったフードタウンに出かけて明日の朝食を調達しよう。



クイーン通り

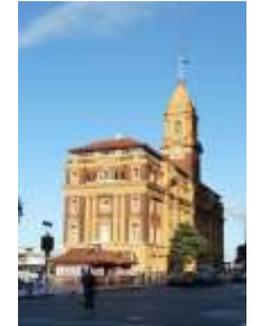
今回のニュージーランドで最後の夕食前に、多少のおみやげを買うためにDFSを覗き、クイーン通りを歩いてみる。日本の銀座のイメージだが、寿司屋が目につく。

レストランはフェリー発着場にあるハーバーサイド。

なんとテラス席に案内されて、フェリーの発着とヨットを見ながらのディナーとなり、なかなか気分が良かったのだが、日が傾いてくると気温も下がり、少し寒くなってしまった。



夕食後、DFSでおみやげとささやかな記念品（再出発と成長、調和を意味するニュージーランド先住民族マオリ族のKoru）を購入。



ハーバーサイドの入るビル

24時間営業のフードタウンへ行き、明朝の果物と地元のスープの素を購入。いよいよ最後の夜も終わりだ。

ニュージーランド さようなら

早朝、昨夜フードタウンで調達した軽い朝食とフルーツ（杏）を食べ、チェックアウト。ロビーにはガイドさんが既に待っていてくれる。

ガイドさん、いろいろとありがとうございました。

計画から3ヶ月、文明の利器（インターネット）とグローバルネットの皆さんの適切な提案と手配、現地の日本語ガイドさんなど多くの皆様のおかげで、自分へのご褒美のニュージーランド旅が実現できた。

皆様、ありがとうございました。

12年前の出会いで生まれた想いと、子供の頃の夢を果たせ、人生の節目で、

最高の旅が終わった。

そして、これが再出発のスタートである。

The end